

令和二年度

福島再生・未来志向シンポジウム

～いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」～

1日目 シンポジウム

開催報告

ごあいさつ

主催あいさつ（環境省）

震災から早いもので10年であります。一言で10年と申しますと、大変な日々でございまして、環境省から見た10年ともう誰も住めない街から比べるこの10年と、かなり気持ちの上で乖離がありますが、その乖離はあってはならない。福島に常に寄り添っていると言うならば、皆さんと同じ気持ちを持って、この再生復興に取り組まなければと、いつも共通話題にしております。環境省と致しましては、皆様方が故郷に帰れる環境作りを早くしなければならぬと思っております。そのためにも地元の皆様方の温かいご支援ご協力が不可欠でございまして、我々も一生懸命取り組んで参りたいと思っております。

こうした環境再生の取り組みに加え、環境の視点から地域の魅力を創造・再発見する福島再生・未来志向プロジェクトをスタートさせておりました。双葉町をはじめ福島の復興に向けた取り組みを着実に実施していかなければいけないと考えているところでございます。2050年カーボンゼロと口で言うのは容易いですが、これは難しいことでありまして、とりあえず2030年のパリ協定の目標をしっかりと、それ以上にクリアしながらこの目標に邁進していきたいと思っております。

既に環境省と福島県は本年8月に未来志向の環境施策に関する連携協力協定を締結しております。ゼロカーボンシティを目指す浜通りの地方公共団体の未来志向のまちづくりを全力で応援させて頂いて、目標達成に向けて頑張りたいと思っております。この実現のためには、本日ご列席の地方公共団体、地元企業の皆様方をはじめ、皆様方と一緒に福島の復興と脱炭素社会の双方の着実な実現に向けて、取り組みを強化させていきたいと思っております。本日のシンポジウムがその一つの契機となりまして、福島から全国へ、その先の環境を発信できるよう願っております。

福島環境再生復興に平素より全力で取り組んでいただいている皆さん方に、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げ、そして皆様方のご健勝と益々のご活躍を心から御礼ご祈念申し上げます。

（シンポジウム開会挨拶より）

共催あいさつ（福島県）

来年の3月には、東日本大震災から10年という大きな節目を迎えます。これまで、県民の皆さんのご努力と国内外からのご支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてきました。ここ双葉町においても、今年の春に、一部区域の避難指示が解除され9月には東日本大震災・原子力災害伝承館、先月には本日の会場でもある産業交流センターもオープンしました。こうした新たな拠点施設の整備が進み住民の方々のふるさと帰還の動きが見られます。一方、風評と風化や産業・生業の再生など、福島県はいまだ多くの課題を抱えています。

このような中、本県の復興・再生を更に進めていくために、大切なことが2つあります。1つは「マイナスをゼロに近づける」環境回復の取り組みです。今もなお、故郷に戻ることができない方々がおられます。除染をしっかりと行い、安心して故郷に戻っていただける環境を創っていくこと、これは、本県の復興を進めていく上で不可欠な取り組みです。もう一つは、「ゼロからプラスを生み出す」未来に向けた取り組みです。福島が誇る豊かな自然環境の魅力を更に高めたり、再生可能エネルギー先駆けの地を目指すなど、本県の強みを生かした未来志向の環境政策を推進していくため、今年8月、福島県は小泉環境大臣と共に連携協力協定を締結しました。この協定には、大きく分けて3つの柱があります。一つ目は国立公園を始めとした自然の魅力を磨き上げ、交流人口の拡大を目指す、「ふくしまグリーン復興構想の着実な推進」です。二つ目は、省エネルギーや再生可能エネルギーの一層の普及などを図りながら、本県の復興を後押しする「復興と共に進める地球温暖化対策の推進」です。世界的に大きな課題となっている地球温暖化対策は、国や県だけで解決できる問題ではありません。こうした問題を解決するためには、一人一人の行動意識や気づきが重要であり、県民、企業、市町村など多くの皆さんの連携、協力が必要です。そして、三つ目は、「ポストコロナ社会を先取りした環境施策の推進」です。新型コロナウイルスにより、リモートワークやワーケーションなどの取り組みが広がっています。福島県をワーケーションの聖地にしていくという思いで、積極的に取り組みを進めていきます。これら3つを柱に、環境省と福島県が共に力を合わせてしっかり取り組んで参ります。

本日のシンポジウムは3つの柱の一つである「地球温暖化対策」を主なテーマにしています。福島県としても、こうした若い世代を始め、多くの県民の皆さんが自分にできることを一つ一つ積み重ね、行動の輪を広げていくことが出来るよう、環境省と連携しながら、地球温暖化対策を更に推進していきます。皆さんも、本日のシンポジウムをきっかけに、是非それぞれの立場で行動をスタートしていただければと思います。

（シンポジウム開会挨拶より）

目次

I	プログラム	1
II	登壇者プロフィール	2
III	基調講演	4
	地球温暖化の現状とわたしたちの生活	4
	(亀山 康子 (国立環境研究所 社会環境システム研究センター長))	
IV	基調報告	8
1	環境省これまでの取組	8
	(和田 紘希 (環境省 環境再生・資源循環局))	
2	国立環境研究所 福島支部の取組	12
	(林 誠二 (国立環境研所 福島支部))	
V	パネルディスカッション ～「復興と共に進める地球温暖化対策」～	15
	セッション1 現在進めている取り組みの紹介	17
	深山陽子氏 (国立大学法人 福島大学)	17
	佐藤順英氏 (株式会社 エイブル)	18
	伊澤史郎氏 (双葉町長)	19
	牧ノ原沙友里氏 (一般社団法人 ならはみらい)	20
	セッション2 福島の復興と未来に向けた課題	22
	セッション3 福島の復興と未来に向けた今後の方向性	23
	セッション4 福島再生・未来志向プロジェクトに対する期待	24
VI	これからの取組	25
VII	アンケート結果	27